

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500021		
法人名	社会福祉法人 鶴丸会		
事業所名	グループホーム・ユートピア		
所在地	伊万里市大川町大川野字赤坂1647番地		
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月19日	外部評価確定日	平成22年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 認知症高齢者の方々が共同居住形態の場において、介護を受けながら各自ができる範囲で、介護者と共に食事の支度、掃除等を行い家庭的な雰囲気の中で共同生活を送り、一人一人が自立を目指していくホームです。

(理念) ありのままに穏やかに！ ゆったりと楽しく自由に！ 残された力で暮らしの喜びと自由を！

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

建物の構造は居室を出ると中央のホールへ向かうようになっており、入居者にとっては誰かの姿がすぐに目に付き安心感を与えている。また、廊下に貼られた白いテープは室内ウォーキングの方向を示したり、和室へ入る際のスリッパ揃えの目印にも使われている。ホールから見渡せる位置に居室や畳の部屋もあり、入居者は自由でありながらも見守られている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護の中で管理者とスタッフが意見交換を重ね「自信と喜びを感じてもらう」生活の支援が行われている。	共有スペースのホール内に掲示された理念は、折に触れ目に留まるようになっている。このことにより、職員の意識付けともなり、言葉数の減った入居者の意思を感じ取ろうとするなど、日々のケアにも反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・1月…鬼火焚き見学 ・8月…夏祭り参加 ・施設広報を全世帯へ配布している。	地区の行事である鬼火焚きや夏祭りに参加したり、事業所便りを地区の全所帯へ配布するなど関わりを深めようと努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に区長に出席してもらう事で地区とのつながりが出来ている。 地区行事にも積極的に参加し、毎日の散歩道も安心して散歩できるようにと、地区の車の往来を少なくしてもらうなど配慮してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況報告・行事などの説明、意見交換を行い、サービスの実践に役立てている。	参加メンバーの出席率も良く、入居者の状況を報告したり、意見交換が行われている。	会議の開催頻度を含め運営推進会議が地域の理解と支援を得るための場として一層充実することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席された際、色々な意見を聞いたり、指導していただいている。	運営推進会議のメンバーでもあることから、意見を聞いたり相談事にも応じてもらっている。会議に出席する行政の担当者は同じとは限らず、その都度、連携を深める努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓の施錠はしておらず、身体拘束をしないよう実践している。やむを得ない時は、ご家族に同意書を書いてもらっている。	玄関などの施錠はせず、全職員が入居者の癖や傾向を掴み、さりげない見守りを徹底している。また、入居者が屋外へ出た場合も一緒に歩いて歩き、安全面に配慮しつつ支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合いをしたり、研修などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の勉強会で必要性と流れに関して一通り勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす前に申込書を出してもらう様にしている。その際に十分な説明を行い、入居希望者にも施設内の見学をしてもらい納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。 運営推進会議の際、家族代表者からは色々な意見を出して頂き参考にしてている。	玄関に意見箱を置くとともに、毎月の利用料を取って持参とし、その際に家族との会話から思いを聞き出すように心掛けている。意見があれば速やかにスタッフミーティングを開き、解決へと繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議・スタッフミーティングを設け、意見を出してもらって反映させている。	毎月の管理者を含む全体会議、それに続くスタッフミーティングは自由に意見が述べられる雰囲気となっている。また、防犯設備などの急を要する意見は速やかに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が勤務時間帯を利用して研修に行けるよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が順番で様々な研修が受けられるように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会佐賀県支部に加入し、他のグループホームと交流を持つ事でサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく利用者と会話をして、スタッフに心を開いてもらい、そこから不安な事、要望をとらえている。又、ご家族から聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との初期面談時に出来るだけ詳しく話を聞くようにしている。ご家族が安心できるような言葉かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の十分な聞き取りと入居して一週間は本人のことを十分観察を行いサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除をしたり、全ての活動などは職員と入居者が一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話などで頻りに話しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援したいと思うが、本人・家族からの情報がありません。 家族の面会などは強く要望している。	支援する体制は出来ているが、本人や家族からの希望は少ない。職員は入居者との会話から馴染みの場所を知りドライブへ連れ出したり、一緒に食材の買い物に行くにも、元の住まい近くへ出掛けるなど出来る限りの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動時には体調不良など無い限り全員に声かけして、参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況などはご家族に会った時に聞いたり、入院されているときは病院訪問などを行い様子を見ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自発的に思いを訴えられる人はいない為家族に尋ねる事が多い。	自らの思いを伝える入居者は少ないが、日々の関わりの中で表情から推し測ったり、行動から汲み取ったりしている。また、家族からも来所時や電話などで情報を得ようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方については入居時に家族、本人に詳しく尋ねている。分からない時があるは来訪の際にも尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の活用を重視し、一人一人の状態に合わせた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で十分な話し合いを行い家族への聞き取りもしている。	職員全体での話し合いや家族からの聞き取りを基に入居者主体の計画となっている。また、その見直しは設定期間にとらわれず臨機応変に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を通じて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時、退居時には、居宅介護支援事業所に協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防署にも広報を配布している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を重視してるが、当施設の協力病院を希望される方が多い。	入居後に主治医の変更を勧めたりはしていない。本人や家族の希望を重視し、事業所の協力医の他、これまでのかかりつけ医にも家族と協力し通院介助を行っている。どちらの医療機関とも職員は連絡を取り合い、信頼関係を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職員がいない為、日中は隣接しているデイサービスの看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻回に面会に行きソーシャルワーカーの方へ相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前の早い段階で医療機関へ相談するようにしている。	事業所は力量や体制から重度化や終末期を支えるには難しい現状であると説明している。しかし、今後は入居者や家族の意向を汲み取りながら体制も整えていく考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置の研修や資格取得をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度の会議の時に避難訓練と年2回は消防署の立ち会いのもと、避難訓練を実施している。	毎月の会議の折に火災などを想定し、一斉通報や緊急連絡のシミュレーションを行っている。また、年2回は消防署の協力を得て入居者と共に避難訓練を行っている。	夜間など職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を十分に尊重し支援している。	入居者の人格を尊重し、援助が必要な時もさりげないケアを心掛けている。また、事業所便りなどに掲載されるスナップ写真や名前などには家族の了承を得るなどして個人情報やプライバシーにも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が出来る事、やりたい事をしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を支援できる様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気温に応じた衣類を出し、その人に似合ったおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、全員の方がほぼ毎日完食され心配はない。手伝いに関しては時々参加してもらっている。	一緒に食材の買い物に行ったり、準備ではごぼうを削いだり、野菜を刻んだり慣れた仕草での手伝いではあるが見守りはきちんとされている。また、「いただきます」や「ごちそうさま」の声かけをする当番者を決めたりしている。職員も同じテーブルで和やかな雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては毎食の食材を多種類使っている。 水分に関しても、十分摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員口腔ケアを確実にを行い、自分で出来るところをもらい、不十分な部分は職員が声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけている為、個々の排泄パターンを把握している。	排泄チェック表により本人の生活リズムを全職員が把握している。あからさまな誘導ではなく、さりげない支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事・水分・運動にて排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	14:30~16:30の時間帯に一日おきに入浴してもらっている。 特に汗をかいたり汚染した時は、その都度シャワー浴を施行している。	原則一日置きに午後の時間帯での入浴としているが、本人の希望があったり汗をかいた時など必要に応じてシャワー浴も含め臨機応変に対応している。入浴剤は好評であり、仲の良い方同士の入浴もあつたりと、拒む入居者は殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が入眠したい時間まで、リビング、和室等で過ごしてもらっている。 強制する事はありません。 部屋の温度調節、寝具は清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情綴りを共有し理解してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で個々の希望する事をやってもらえるよう支援している。 (お盆拭き、掃除、草むしり、読書、縫い物など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々が自由に外出することは無いが、気温に応じて散歩したり、買い物に行ったりしている。	気候の良い日は近所への散歩などで五感の刺激となっている。また、周辺の農道などは区長から回覧板などを通じ、車の徐行と歩行者(入居者)への注意が促されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクリエーションや外出時に自分で好きな物を選んでもらい、支払いは職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される際は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を置いたり、みんなで作った作品を置き、音や光には配慮している。	玄関には季節の置物や合作である貼り絵などが飾られている。また、建物中央にあるホールでは手作りの日替わりカレンダーが掛けられている。床暖房で程好い暖かさで天窓からの自然光も心地よい。このホールで入居者は一日の大半をのんびり、ゆったりと過ごしている。トイレなどもきれいに清掃され臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、自由に行って会話したりテレビを見たりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室に何でも置いてよいことになっており、仏壇などを持参されている方もいる。	ベッドと整理ダンスは備え付けで、他に馴染みの物を持ち込むことに制限はない。壁の飾りなども本人の好みに応じて行われ、居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく「便所」の貼り紙をして、自室も分かりやすいよう本人の写真などを貼ったり名前をつけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない